

Investigation into the causes of indwelling
urethral catheter implementation and its
effects on clinical outcomes and health care
resources among dementia patients with
pneumonia retrospective cohort study

前田, 俊樹

<https://hdl.handle.net/2324/1806862>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

(別紙様式2)

氏名	前田 俊樹
論文名	Investigation into the causes of indwelling urethral catheter implementation and its effects on clinical outcomes and health care resources among dementia patients with pneumonia A retrospective cohort study
論文調査委員	主査 九州大学 教授 二宮 利治 副査 九州大学 教授 鴨打 正浩 副査 九州大学 教授 江藤 正俊

論文審査の結果の要旨

本研究では、認知症を有する高齢者において、尿道留置カテーテルの使用に關与する要因およびカテーテル留置が患者の死亡、医療費、在院日数に及ぼす影響を検討した。75歳以上で認知症を有し、肺炎で入院し抗生剤投与がなされた患者4501名を対象とした。アウトカムは患者の死亡、在院日数と総医療費とし、尿道留置カテーテル使用群と非使用群で比較した。その結果、尿道留置カテーテル使用群では、非使用群に比べ有意な死亡数および総医療費の増加と在院日数の延長が認められた。尿道留置カテーテルの使用について、同じ医療施設内では類似するパターンを有していた。一方、尿道留置カテーテルの使用頻度は、施設間で有意に異なっていた。

これらの知見は、わが国における高齢者医療の質を医療施設毎に調査し、改善を促進するような枠組みの構築が急務であることを示唆するものであり、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実施成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても概ね適切な解答を得た。よって、調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。